

教育哲学会編

# 「教育哲学研究」

# バックナンバー 販売中

詳しくは裏面を  
ご覧ください。

ISSN 0387-3153

## 教育哲学研究

第 85 号  
2003

研究討議 共生社会における子どもと教育

〈他者〉との対峙としての共生——教育についての考察	土戸 敏彦 (1)
共生と教育の二つのカタチ	兵部 智司 (6)
自己中心的トポスとしての「教室という存在」の再構築 ——「共生」に基盤をわく連帯教育の可能性——	建部 清 (11)
総論的報告	土屋和太郎 (16) 橋 正之

課題研究 「学方論」の探照灯

学方論の用語と前提——近代近世社会の中での位置——	松下 良平 (26)
学方論への反本質主義的批判	加賀 海部 (30)
子どもの学ぶ力を観るひま型が必要 ——メルロ＝ポンティのフロンティアの観点——	西岡けいこ (31)
総論的報告	宮下 博美 (36) 森田 尚人

論 文

ディルタイの自己理解における意識——意識関係の再検討  
——自己意識現象の中期と後期の連続性に着目して——

吉田 誠 (42)

教育哲学における他者関係の技法の検討について  
——レヴィナスとフーコーの比較を通して——

小澤 文生 (50)

フヒツの相互人間性論にみる自己——他者関係の教育学の考察

橋本 英明 (57)

エッセイ  
自己理解と自己超越の問題——教育学の自覚的試み——

井 志幸 (62)

教育哲学を考える

今井 清隆 (68)

書 評

鈴木幹雄著『ドイツにおける非神教育学成立過程の研究  
——非神教育運動から初等G・オットーの非神教育学へ——』

真壁 史幹 (80)

藤沢元夫著『ルターとメラントンの教育思想研究序論』

橋田 弘 (84)

図書紹介  
沼本英明著『新教育学の教育学の研究』

小笠原清彦 (88)

Jan Schwilke, Alfred K. Trenk: Begabung der Kulturen.  
Was kann die interkulturelle Pädagogik von Otto Friedrich Bollnow lernen?

岡本 英明 (88)

学会報告  
第44回大会報告

(88)

訳文摘要

教 育 哲 学 会

# 「教育哲学研究」 バックナンバーのご案内

教育学术新聞では、教育哲学会編「**教育哲学研究**」のバックナンバーを販売いたしております。

ただし、全号に在庫があるわけではなく、また、今後バックナンバーの増刷はありませんので、あらかじめご了承ください。

購入希望者は、**下記事項及び希望の号数・冊数**を記入の上、Email 又は FAXでお申込ください。

- ・氏名（フリガナ）
- ・所属（社名・大学名など）
- ・請求書等送付先住所
- ・電話番号
- ・Email アドレス（お持ちの方のみ）
- ・希望号数・冊数

次ページからは、在庫があるバックナンバーの目次になっております。ご参考ください。また、ご注文を頂いても、**すでに在庫切れになっている場合**もありますので、ご了承ください。また、若い号数は黄ばみ等がある冊子もございますが、ご了承ください。

価格は、**1冊700円（税込）+送料**となっています。

## ・教育哲学研究

我が国の教育哲学の代表的な学会である、教育哲学会の学会誌として、1959年に創刊。以来、毎年2号発刊。2004年10月現在で、最新号は89号となっている。

問い合わせ・注文はこちらまで

## 教育学术新聞

〒102-0073

千代田区九段北4-2-25（私学会館内）

電話03-3261-7048

FAX03-3261-0769

Email : gakujutu@shidaikyo.or.jp

第 9 号

1964

特集 道德教育の基礎理論

- 日本の道德教育(前篇).....稲富栄次郎(1)
- 道德的知性について.....浜田俊吉(20)
- ヘルバルトによる教育目的としての  
道德性概念の拡大.....高久清吉(38)
- 道德教育文献年表.....原田茂(57)

※ ※ ※

- ヤスパースにおける教育の二律背反性.....小川克正(68)

報告・紹介

- 第六回教育哲学学会大会報告.....(84)
- 昭和37年度各大学・大学院卒業論文題目.....(87)

<英文摘要>

第 38 号

1978

論文

- 「教」意考.....徳木浩太郎(1)
- 研究ノート
- 現代西ドイツの教育学的行為研究.....江島正子(15)
- クラフキーとヘーバーリンを中心に——

資料

- 日本の一教授に宛てたシュブランガーの教育の定義についての手紙.....松月秀雄(29)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- "The Thought of Martin Buber, A Centenary  
Conference: 1878~1978".....斎藤昭(43)

書評

- 宇佐美寛著『教授方法論批判』.....古味 勇通(49)
- 天野正治著『現代ドイツの教育』.....クラウス・ルーメル(56)

<英文摘要>

第 40 号

1979

論文

- デュルケームの社会化の概念.....中村 清(1)
- 学校教育と美意識の形成.....上野 浩道(16)
- 西洋画教育受容の一形態——
- 現代カトリック教育学における実存的思考.....矢崎 律子(32)
- タルノフスキーを中心として——
- 動的相対主義の無基準性.....池田久美子(50)
- 特に「確定」「不確定」について——

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- 第19回国際モンテッソーリ会議に参加して.....原 弘美(65)
- A.M.I. の50年とモンテッソーリ教育の現代的意義——

書評

- Christoph Wulf: Theorien und Konzepte  
der Erziehungswissenschaft, 1978.....宗和 太郎(70)

<英文摘要>

第 37 号

1978

研究討議報告

- 教育学の科学性を問う —方法論の学理論争を踏まえて—
- 概念分析の必要性.....宇佐美 寛(1)
- 解釈学的=現象学的立場からの考察.....岡本 英明(7)
- 「批判理論」的視点からの問題提起.....小笠原道雄(13)
- 教育学の科学化のために.....村井 実(21)
- 研究討議に関する総括的報告.....小林 博英(27)
- 講 演
- ドイツにおける教育学の動向.....ルドルフ・ラサーン  
.....平野智美 監訳・高祖敏明 訳(32)

論文

- ベスグロッチにおける政治と教育  
——フランス革命期を中心として——.....乙訓 稔(47)
- 中村正直における教育的人間像  
——儒教的人間観とキリスト教的人間観の相観——.....岡田 典夫(61)

★ ★ ★

書評

- F. Hartmut Pafirath: Eduard Spranger und die Volksschule, 1971;
- Roland Kollmann: Bildung・Bildungsideal・Weltanschauung, 1972  
.....村田 昇(76)
- Peter Kamm: Paul Häberlin, Leben und Werk Bd. I. Die Lehr-  
und Wanderjahr, 1977.....高橋 憲一(81)
- 報 告
- 第20回教育哲学学会報告.....(87)

<英文摘要>

第 39 号

1979

研究討議

現代教育と青少年の問題行為

- 現代教育と青少年の問題行為.....杉谷 雅文(1)
- 社会病理としての有害環境.....西 勇(5)
- 文明論風に.....堀内 守(9)
- 現代教育と青少年の問題行動.....村井 実(13)

論文

- 「育」意考.....徳木浩太郎(17)
- 教育者ソクラテスの成立過程.....北島 知暁(31)
- 自然学の徒から教育者への転換は  
如何にして可能であったか——

講 演

- ヘルバルトの「自由教育学」.....フルター・アスムス  
——今日の「解放教育学」に対比して.....中森 善治訳(48)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- 教育諸科学の発達—フランス—.....グレイ・アヴァンティエーニ  
石堂 常代訳(62)

書 評

- 小林政吉著『アバー研究』について.....斎藤 昭(78)

<英文摘要>

第 41 号

1980

研究討議

20世紀と子ども

- 20世紀と子どもの教育.....東 日出男(1)
- 20世紀の子どもと「しつけ」.....市村 尚久(6)
- 20世紀の日本の子ども.....井野 正人(11)
- 現代日本の子どもと「影」の問題.....河合 肇雄(13)
- 研究討議に関する総括的報告.....森田 孝(18)

論文

- 「対話」と人間形成の課題.....大塚 恵一(22)
- 「対話への」と「対話による」とのかかわり——
- イデオロギーとしての「純粋教育科学」.....新井 保幸(40)
- E・クリークにおける「教育科学」と「全休主義」の関係——
- 「源氏物語」の教育学的考察.....尾田 綾子(57)
- 現代学校への原理的提議.....松野 憲二(71)
- 旧時代日本学校教育態様の講究を通して——

- 池田さんの質問にこたえる.....上田 薫(85)
- 講 演
- よるべき両観.....M・J・ランゲフェルト  
矢野 智司・和田 修二訳(88)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- ケルン大学教育学ゼミナールにて.....高祖敏明(99)

書 評

- Menachem Gerson: Family, Women, and  
Socialization in the Kibbutz.....斎藤 昭(106)
- P・フレイレ著『被抑圧者の教育学』.....中山 幸夫(112)

- 報 告
- 第22回全国大会報告.....(120)

<英文摘要>

第 42 号

1980

論文

- エーリッヒ・フロム「自己実現」論の成立と構成……田中 実(1)
フレールにおける神の概念
——神の在り方と自然——……岸 信行(20)
相補説の教育哲学的立場の考察
——井上弘の場合——……武藤 文夫(41)
「平和教育」をめぐる一つの根本的問題……村井 実(56)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- マールブルク大学教育学科
——教育学講座・学科の形成をめぐって——……林 忠幸(67)
現代ドイツ教育学における根本思想の変化 クレメンス・メンツェ
——教育関係の解釈をめぐって——……高祖 敏明(73)

書評

- 東岸克好著『ベストロッチの直観教育思想の研究』……大浦 猛(94)
栗田 修著『デューイ教育学の起源』……讃岐 和家(100)

<英文摘要>

第 45 号

1982

研究討議

- 教育におけるナショナルなものといインターナショナルなもの
新しいナショナルイズム……竹内 巧(1)
「人格」の「意味」のもとでの「ナショナルなもの」
……千葉 泰爾(4)
国際化時代の教育理想……松田 高志(7)
教育の国際的な出会い……石 附 実(10)
研究討議に関する総括的報告……東 日出男(13)
森 田 昇(30)

教育と暴力

- 特に校内暴力を中心として……山口 治(17)
認知論からの考察……上 田 吉一(20)
「暴力」発生の機序と教育の意味……伊藤 隆二(23)
「校内暴力」事件からみた学校の存在意義……小川 博久(27)
研究討議に関する総括的報告……村 田 昇(30)

論文

- ベストロッチの初期思想における「困窮」の人間形成的意義
……木村 吉彦(34)
教育における「作業」(Arbeit)の理論的検討
——ケルシェンシュタイナーの「作業」観の二面性を分析して——
……高橋 勝(47)
「道徳性」の現象学的解明の試み
——教育の人間学的視点から——……山下 泰子(59)
明治期啓蒙の課題 ——津田真道を中心に——……金子 幸子(71)
学会報告
第24回全国大会報告……(84)

<英文摘要>

第 56 号

1987

論文

- 教育と教育を越えるもの
——ヤスパーズにおける実存と教育——……吉村 文男(1)
デューイの教育哲学における「個性(individuality)」の機能……立山 善康(15)
現代教育における「信頼」の意義——M・ブーパーを中心に——原 弘巳(29)

研究ノート

- 人間は技術的に対象化されるか
——M・ハイデッカーを手がかりとして——……砂原 由和(42)
教育哲学を考える……久木 幸男(55)

研究状況報告

- 内山宗昭, 今井康雄, 大西正倫……(57)

書評

- 上智大学中世思想研究所編集『教育思想史』
第1巻 ギリシア・ローマの教育思想……村田 昇(69)
第III・IV巻 中世の教育思想(上・下)……沼田 裕之(75)
森田尚人著『デューイ教育思想の形成』……峰島 旭雄(80)
藤 武者『アメリカ幼児教育思想の研究』……杉浦 宏(85)

<英文摘要>

第 44 号

1981

論文

- 教育論における状況設定について
——ルソー『エミール』を中心に——……梅本 洋(1)
「はいまわる経験主義」の再評価
——知識生長過程におけるアブダクションの論理——
……池田 久美子(18)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- 中国教育界のグリンプス……武田 清子(34)
教育哲学・いくつかの最近の業績
——I. シェフラーによる論評の紹介——……児島 雅典(39)

書評

- 西村 結著『生の教育学研究』……森田 孝(45)
E. ガイスラー著『現代教育の危機』……平野 智美(50)
宇佐美 寛氏の書評にこたえる……向山 洋一(57)

<英文摘要>

第 46 号

1982

論文

- リットのナチズム批判……新井 保幸(1)
教育における当為一元論の終焉
——ベストロッチとフィヒテの場合——……土 戸 敏彦(17)

研究状況報告

- 甲斐 進一, 山口 栄一, 生田久美子, 松井 春満,
田村 純司, 谷川 彰英, 石堂 常世……(33)

★ ★ ★

外国学界・教育界の動向

- アメリカの教育学研究の一面
——教育の哲学的研究動向を中心に——……市村 尚久(62)
チューリッヒ大学教育学研究所のこと……下山田 裕彦(69)

書評

- 上野浩道著『芸術教育運動の研究』……久木 幸男(74)
杉浦 宏編『アメリカ教育哲学の展望』……依木 浩太郎(80)
市村尚久編『現代に生きる教育思想1
——アメリカ——』……松川 成夫(86)

<英文摘要>

第 60 号

1989

論文

- 解教育的教育学の実践哲学的考察
——トボス論、フロネシス、レトリックを中心に——……岡本 英明(1)
「問題解決学習」における子どもの「思考」と「経験」について
——脈絡転換の観点からの「問題解決」過程の分析——……藤井 千春(16)
理念なき時代のビルドゥング
——グアルディニーのビルドゥング論における「弁証法」の問題——
……板井 佳樹(29)

研究ノート

- ラングフェルド教育学における現象学的方法の課題……渡辺 英之(42)
教育哲学を考える……東岸 克好(56)

研究状況報告

- 中井孝章, 田沼光明, 鈴木志乃恵, 滝沢文雄,
小川智史, 山本かおり……(58)

外国学会・教育界の動向

- ボン大学留学体験から……米山 弘(86)

書評

- 和田修二・山崎高哉編
「人間の生涯と教育の課題——新自然主義の教育学試論——」……松井 春満(94)
K. モレンハウアー著・今井康雄訳
「忘れられた連関〈教える——学ぶ〉とは何か」……松本 恵(99)

<英文摘要>

研究討議

子ども・大人・教育責任

——危機的状況における教育的コンセンサスを求めて——

学校の役割と知性の教育—教育の信頼を回復するために— …… 上野 浩道 (1)

おとなの成熟と異世代間相互規制 …… 田中 每実 (6)

フィルター・自己活動・回想 …… 今井 康雄 (11)

討議経過のまとめ …… 堀内 守 (17)

課題研究

知の転換と教育課題

——現代科学と人間の主体性の問題——

学校改革の方向をさぐる …… 加藤 幸治 (21)

現代科学と人間の主体性—問題の予備的考察— …… 桐田 清秀 (24)

知の転換と教育課題 …… 森田 孝 (30)

課題研究に関する統括的報告 …… 小笠原道雄 (35)

星 紀夫

論文

「超越論的批判的教育学」の意味するものとその射程 …… 土戸 敏彦 (37)

研究ノート

実験教育学の終焉

—新教育学運動における教育理解と科学理論的基礎づけのずれ— 木内 陽一 (50)

ボルノーにおける言語教育論についての一考察 …… 広岡 義之 (64)

教育哲学を考える …… 原 聡介 (77)

研究状況報告 …… 岡本 英明 (79)

学会報告

第32回大会報告 …… (83)

<欧文摘要>

研究討議

教育における合理主義と非合理主義

——近代の教育と教育学を問いつために——

「近代学校」と合理主義 …… 俵木浩太郎 (1)

教育の合理主義的理解とは何か …… 宮寺 晃夫 (4)

合理主義と非合理主義の二項対立を超えて …… 矢野 智司 (10)

研究討議に関する統括的報告 …… 寺保 聡介 (15)

原 聡介

課題研究

教育課題としての知の転換

——学校での知識は個の生き方に役立っているか——

知識の獲得と生き方の変容—モンテッソーリが提起した問題— …… 相良 敦子 (20)

教育課題としての知の転換

—学校での知識は個の生き方に役立っているか— …… 甲斐 進一 (26)

教育課題としての知の転換

—学校での知識は個の生き方に役立っているか— …… 山崎 高哉 (31)

課題研究についての統括的報告 …… 毛利臨太郎 (36)

論文

堀内松三における国語教育科学の構想 …… 戸田 功 (42)

J. ハイパーマスの行為理論の持つ教育学の意味 …… 野平 慎二 (54)

デュエイ教育学における「自己」の位置

—「成長」としての教育目的論を中心に— …… 山室 吉孝 (66)

音楽教育における身体観の再検討

—環境音楽とは「音の教育」を手がかりにして— …… 中井 孝幸 (80)

カウンタ教育思想におけるデモクラシーと教化の関係

—歴史相対主義と「信念」— …… 田中 智志 (94)

教育哲学を考える …… 西村 皓 (100)

文獻紹介

フリードリヒ・フレーベルの幼稚園創立にかかわる「直筆書簡」 …… 小笠原道雄 (108)

書評

M. ラングフェルト、H. ダンナー著、山崎高哉監訳

「意味的教育」 …… 高橋 勝 (112)

上野浩道著「知育とは何か」 …… 笹本 正樹 (117)

研究討議

教育的関係の構造

バルメニス・プロタゴラス・ソクラテス

——古代ギリシャにおける三つの教師像—— …… 加藤 守重 (1)

教育関係の原構造—場の論理から— …… 増淵 幸男 (6)

開かれた教育的関係の可能性を探る …… 渡辺 英之 (11)

研究討議の報告 …… 沼田 裕之 (16)

堀内 守

課題研究

教育課題としての知の転換

——「知っていても出来ないとは何か」——

その《面白》を圧縮し、転移させる …… 堀内 守 (21)

(知識/行為) 問題の教育思想的文脈 …… 今井 康雄 (25)

「知っていてもできない」とは何か …… 生田久美子 (30)

課題研究の計画・実施・反省 …… 宇佐美 寛 (36)

論文

ウィットゲンシュタインの言語ゲーム論とその教育的意義

——教育論としての言語ゲーム論における「理解」と「知識」—— …… 丸山 恭司 (41)

モンテッソーリにおける「進化論的ヴィジョン」の独自性

——ハクスレーとの比較を通して—— …… 笹原 英之 (55)

十牛図の自己教育研究 …… 谷川 守正 (69)

エッセイ

世紀末の教育哲学—どこまでつづぬか— …… 久木 幸男 (85)

「教育哲学」を考える …… 宇佐美 寛 (97)

書評

H・レールス著、長谷川守男訳「一般教育学」 …… 鈴木 晶子 (99)

学会報告

第34回大会報告 …… (103)

投稿要領の改訂についてのお知らせ …… (108)

<欧文摘要>

論文

ソクラテス教説「徳は知である」考

——プラトン初期対話篇を手がかりとして—— …… 岩間 秀幸 (1)

ヘルバルト教育学における趣味判断の位置づけ …… 浜田 栄夫 (16)

ロジャースに対するブーバーの異議

——援助的関係における「対等性」と「受容」の問題をめぐる—— …… 吉田 教彦 (32)

教育哲学を考える …… 小林 政吉 (47)

研究状況報告

関川悦雄、小川哲哉、横山れい子 …… (49)

外国学界・教育界の動向

チュービンゲンの教育学研究近況 …… 山内 芳文 (67)

西ドイツ・ケルン滞在報告 (1982年から1989年) …… 鈴木 晶子 (72)

書評

増淵幸男著「ヤスバースの教育哲学研究」 …… 田代 尚弘 (78)

宇野英恵子著

「教育の復権—大正自由主義教育と自己超越の契機—」 …… 鈴木美南子 (83)

<欧文摘要>

論文

ベスタロッパー人間学の精神分析的解釈の試み …… 寺岡 聖豪 (1)

「人間形成」における〈nonsense〉の意味に関する試論

——「遊びを教育すること」の可能性をめぐる—— …… 鶴野 祐介 (15)

カント教育論の目的論的構造 …… 三井 善止 (29)

「エッセイ欄」について …… (44)

エッセイ

教育と人間性 …… 村井 実 (45)

一病息災の論 …… 上田 薫 (60)

教育哲学を考える …… 和田 修二 (72)

研究状況報告

東 敏徳、尾崎 恭一 …… (74)

書評

鈴木晶子著「判断力養成論研究序説—ヘルバルトの教育的ダクトを軸に—」 奥平 康照 (86)

俵木浩太郎著「孔子と教育—「好學」とフィロソフィア」 …… 久木 幸男 (90)

下山田裕盛、結城敏也編著

「遊びの思想—遊び理解と人間形成」 …… 小川 博久 (94)

<欧文摘要>

論文

ベンヤミンとデュエイ

——二つの教育思想の差異の構造—— …… 今井 康雄 (1)

M・ジョンソンの想像力論とその教育的意義

——身体を基礎とした知識論の可能性—— …… 金光 輝樹 (15)

ドイツ「改革教育学」運動に関する一考察

——H. ノーレンのカノンを中心に—— …… 坂越 正樹 (28)

H. フロンの「子どもにおける思考の転換」の子どものみかた

——「対」の概念による「対話」分析の検討を通して—— …… 西岡けいこ (41)

エッセイ

イデオロギー・権力・教育

——ドイツと日本の場合—— …… クラウス・ルーメル (54)

教育哲学を考える …… 俵木浩太郎 (65)

書評

D. トレーラー著、乙訓 徳(訳)「ベスタロッパーの哲学と教育学」 …… 村田 昇 (67)

長井和雄著「言語力形成の論理」 …… 今井 康雄 (72)

森川 直著「ベスタロッパーの教育思想の研究」 …… 沼田 弘 (76)

齊藤 昭著「ブーバー教育思想の研究」 …… 堀内 守 (82)

<欧文摘要>

研究討議

ライフサイクルの危機と教育理論の再構築  
——「老いと死」、「出産と性」、「時間論」から——

老いと死の問題視角から ..... 中村 清 (1)  
 出産と性の問題視角から ..... 森田 伸子 (6)  
 ライフサイクルと時間意識 ..... 今井 康雄 (12)  
 研究討議についての総括的報告 ..... 田中 每実 (17)

課題研究

教育哲学を問う  
——教育学における古典研究の意味——

旧新約聖書から学ぶ ..... 小林 政吉 (22)  
 教育学における古典研究の意味 ..... 村田 昇 (28)  
 教育学における古典研究の意味 ..... 森田 尚人 (34)  
 課題研究についての総括的報告 ..... 沼田 裕之 (40)  
 ..... 増淵 幸男 (40)

論文

〈因果プラン〉論からみた教育目的の機能  
——N・ルーマンのシステム理論を中心として—— ..... 山名 淳 (44)  
 超越論的批判の視角からみた「ポストモダン」の教育学的地位 ..... 土戸 敏彦 (57)  
 ハンナ・アレントの統合教育批判  
——アメリカ合衆国における公民権問題の文脈で—— ..... 小玉 重夫 (71)  
 ドイツにおける芸術教育学の成立過程についての一考察  
——G・オットーによる芸術教育学の模索とA・エールハルトの  
 芸術教育構想(造形思考論 Gestaltungslehre) (1932)について—— ..... 鈴木 幹雄 (85)

エッセイ

教育学教育を通して、教育と教育学を考える ..... 長尾十三二 (99)

教育哲学を考える

..... 村田 昇 (106)

書評

山崎高哉著『ケルシェンシュタイナー教育学の特質と意義』 ..... 大谷 光長 (111)  
 西平 直著『エリクソンの人間学』 ..... 齋藤久美子 (116)  
 赤塚徳郎著『スペンサー教育学の研究』 ..... 宮寺 晃夫 (121)

学会報告

第36回大会報告 ..... (127)  
 <欧文摘要>

第 71 号

研究討議

教育的価値としての〈経験〉  
——近代以降のドイツ教育学の展開をめぐって—— ..... 山崎 高哉 (1)  
 「教育的価値としての経験」について  
——ロックとルソーにおける経験概念を手がかりに考える—— ..... 鈴木 剛 (7)  
 教育的価値としての〈経験〉  
——「経験のコントロール」から「開放へ」 ..... 加藤 幸次 (13)  
 ..... 市村 尚久 (18)  
 ..... 上野 浩道 (18)  
 研究討議についての総括的報告

課題研究

教育哲学を問う  
——教育学研究の多様化の中で——

システム論の立場から教育哲学を問う ..... 今井 康雄 (23)  
 ポストモダンと教育学 ..... 島光美緒 (29)  
 教育学の「哲学」と教育哲学への期待 ..... 山口 崇一 (35)  
 課題研究についての総括的報告 ..... 原 聡介 (40)

大会講演

反教育学—その論議と誤謬問題— ..... (訳：伊藤敏子、監訳：長井和雄) ..... (45)

論文

A・シュッツにおける「レリバンスの変換」 ..... 山田 雅彦 (61)  
 カントにおける教育学の構想とその方法的基礎  
——理論—実践問題と「judiciales」な教育学 ..... 山口 匡 (73)

研究状況報告

..... 岡本 英明 (87)

エッセイ

教育史教育・研究と専門心学の教育思想—明治・大正初期を中心に— ..... 石川松太郎 (91)  
 教育哲学を考える ..... 倉岡 正雄 (108)

外国学界・教育界の動向

第37回世界教育連盟東京国際会議 ..... 金子 光男 (105)

図書紹介

A・フリットナー著 森田 孝 (監訳)『教育改革—二十世紀の衝撃』 ..... 今井 康雄 (118)  
 和田修二(著)『教育する真知』 ..... 上野 浩道 (119)

学会報告

第37回大会報告 ..... (120)

欧文摘要

第 73 号

研究討議

教育学研究における高度化とは何か

教育学研究の高度化 ..... H-E テノルト (1)  
 教育学研究における高度化とは—大学の責務の観点から— ..... 岡田 滙美 (6)  
 教育学研究における高度化とは何か  
——多元数理科学(Multi-mathematics)の観点との対話から— ..... 堀内 守 (13)  
 研究討議についての総括的報告 ..... 大野 正治 (18)  
 ..... 小笠原道雄 (18)

課題研究

教育学を問う  
——わが国教育哲学の軌跡から——

「教育哲学会」の歩みを振り返りかえって ..... 村井 実 (24)  
 教育研究のあり方を総合的に見直す視点から ..... 堀尾 輝久 (29)  
 教育哲学の未来 ..... 矢野 智司 (42)  
 課題研究についての総括的報告 ..... 毛利陽太郎 (47)  
 ..... 増淵 幸男 (47)

論文

ルソーにおける利己的情念と「人間の本源の善性」論 ..... 坂倉 裕治 (51)

エッセイ

..... 長井 和雄 (61)  
 教育哲学を考える ..... 甲斐 進一 (77)

書評

浜田栄夫著『表象理論とヘルバルト』 ..... 鈴木 晶子 (79)  
 三木 博著『ユング個性化思想の構造』 ..... 田中 每実 (85)

図書紹介

P.H. フェニックス著、岡本道雄・市村尚久訳  
 「コンメン・グッドへの教育—カリキュラムの道徳哲学—」 ..... 宮寺 晃夫 (92)  
 甲斐進一著『社会的自己実現の教育』 ..... 毛利陽太郎 (98)  
 橋本秀史著『新井奥遠の人と思想—人間形成論—』 ..... 久本 幸男 (94)

学会報告

第38回大会報告 ..... (96)

欧文摘要

論文

H・ダンナーの「教育的責任」論  
——その特質と今日的意義—— ..... 渡邊 隆信 (1)  
 「理性」による教育  
——ヤスバスの「理性(Vernunft)」と「愛(Liebe)」をめぐって—— ..... 深谷 潤 (14)  
 教育的行為概念の身体論的再構成  
——教育学における身体論的アプローチの可能性—— ..... 矢野 博史 (26)

エッセイ

森と自然と人間と ..... 森田 孝 (42)

教育哲学を考える

..... 岡田 滙美 (51)

書評

影山孔子著『成瀬仁蔵の教育思想  
——成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育』 ..... 鈴木美南子 (55)

図書紹介

増淵幸男著『教育的価値論の研究』 ..... 藤高 祥彦 (61)  
 岡田滙美編『老いと死—人間形成論的考察』 ..... 鈴木志乃原 (62)  
 加藤芳正・矢野智司著『教育のパラドックス/パラドックスの教育』 ..... 田中 智志 (63)  
 市村尚久著『エマソンとその時代』 ..... 上野 浩道 (64)  
 小笠原道雄著『フーバーとその時代』 ..... 高橋 勝 (66)

<欧文摘要>

第 72 号

論文

小泉節子の「独立人格」の理念に関する一考察 ..... 山田 純恵 (1)  
 アーノルド・ゲレン「制度の哲学」の教育学的意义 ..... 岡谷 英明 (16)

エッセイ

生における出会いと連関的形成 ..... 西村 皓 (31)

教育哲学を考える

..... 毛利陽太郎 (44)

書評

北島知量著『ソクラテス研究—ギリシャの挑戦—』 ..... 岩間 秀幸 (46)  
 田代尚弘著『シュプラランガー教育思想の研究—シュプラランガーとナチズムの問題—』 ..... 坂城 正樹 (52)

図書紹介

高橋 勝・下山田裕彦著『子どもの〈暮らしの社会史〉—子どもの戦後五十年—』 ..... 小川 博久 (59)  
 上田 薫著『人が人に救えるとは—21世紀はあなたに改革を求める—』 ..... 毛利陽太郎 (60)  
 杉浦 宏編著『アメリカ教育哲学の動向』 ..... 田中 智志 (61)  
 沼田裕之著『教育目的の比較文化的考察』 ..... 宮寺 晃夫 (62)  
 村田 昇編著『シュプラランガーと現代の教育』 ..... 米山 弘 (63)

<欧文摘要>

第 74 号

論文

1925-1932年初期論文におけるカール・R・ポパーの思想形式と「新教育」  
——初期教育学的諸論文と「認識論の二つの根本問題」を中心に—— ..... 青木 英夫 (1)  
 ピーターズにおける「教育哲学」の構想—イギリス分析的教育哲学の基礎— ..... 谷田 増幸 (16)

エッセイ

デュエイ考 ..... 杉浦 宏 (29)

教育哲学を考える

..... 金谷 茂 (43)

外国学界・教育界の動向

ドイツ教育学との交流 ..... 今井 康雄 (45)  
 第一回日独フレイベル会議について ..... 小笠原道雄 (53)

書評

広瀬俊雄著『ベストロッチャーの言語教育思想』 ..... 森川 直 (56)

図書紹介

和田修二編『教育的日常の再構築』 ..... 高橋 勝 (61)  
 岡田滙美編『人間形成論—教育学の再構築のために—』 ..... 沼田 裕之 (62)  
 天野正治、木戸 裕、長島啓記訳『ドイツの学校と大学』 ..... 今井 康雄 (63)  
 市村尚久他編『教育関係の再構築』 ..... 立川 明 (64)  
 江島正子著『フンボルトの人間形成論』 ..... 三輪貴美枝 (65)

欧文摘要

第 75 号

1997

研究討議

教師の存在論

「中間者」としての教師—教職への存在論的接近— 佐藤 学 (1)
技術論から相互関係論へ—(教師・生徒)関係の組みかえ— 高橋 勝 (5)
教師の二重モード—代理審級、事後心象、そして虚構の時代— 田中 智志 (11)
研究討議に関する総括的報告 田中 今井 康雄 (16)

課題研究

戦後の教育を問い直す

—教育哲学からのアプローチ—

戦前・戦後の「教育」概念への問い 俵木浩太郎 (23)
戦後教育の哲学的基礎
—自己矛盾としての(子ども尊重)の思想の「乱熟」— 松下 良平 (28)
戦後教育を問う—ポストモダンの視界から— 黒沢 惟昭 (34)
課題研究についての総括的報告 山崎 高哉 田代 尚弘 (40)

論文

ジューの批判的教育学に関する一考察—「差異」と公共領域— 上地 完治 (47)
エッセイ
キリスト教と教育の接点 松川 成夫 (60)
教育哲学を考える 小川 博久 (70)
書評
土橋 寶著『ゲーテ教育学研究—その世界観・遊戯観・人間形成観—』 西村 拓生 (72)
図書紹介
テオドル・リット著、小笠原道雄訳『技術的思考と人間陶冶』 池田 全之 (79)
村田 昇著『シュプランガー—教育学的研究—』 今井 重孝 (80)
『ベスタロッチ—フレールベル事典—』 宮寺 晃夫 (81)
『教育哲学研究』総目次(創刊号—第75号) (82)
学会報告
第39回大会報告 (122)
欧文摘要

第 77 号

1998

研究討議

教育における伝統と創造

《コミュニケーション・ルネッサンス》の意味 佐藤 令子 (1)
伝統とその崩壊—近代日本「教育」の否定的側面— 俵木浩太郎 (6)
教育学知における伝統と創造
—今日における古典研究の意味をめぐって— 鳥光美緒子 (14)
伝統と創造の一致—「古典」の見直し— 吉村 文男 (21)
研究討議に関する総括的報告 尾田 康雄 田井 康雄 (26)

課題研究

戦後教育を問い直す

—子ども理解はどこまで深まったか—

子ども理解はどこまで深まったか
—ある教育実践記録の味を辿って— 田中 孝彦 (31)
戦後教育を問い直す
—子ども理解はどこまで深まったか— 喜多 明人 (37)
戦後教育と子ども理解—関係論の立場より— 宮野 安治 (41)
課題研究についての総括的報告 原 聡介 星 紀夫 (47)

論文

ハーバースの討論倫理学における道徳的観念の検討 西野典由美 (51)
ドルフ・シュタイナーの人間学的認識論に関する一考察 齋藤 吉則 (65)
モンテッソーリにおける「子ども」
—19-20世紀転換期の優生学的な知の中で— 山内 紀幸 (78)
エッセイ
「まっとう」であること—今、なぜ世界観への問いか— 岡田 潤美 (92)
教育哲学を考える 森田 尚人 (109)
書評
宮寺晃夫著『現代イギリス教育哲学の展開—多元的社会への教育—』 山崎 高哉 (111)
天野正治編著『ドイツの異文化間教育』 山名 淳 (116)
中田基昭著『現象学から授業の世界へ』 西岡けいこ (123)
図書紹介
京都大学高等教育授業システム開発センター編
『開かれた大学授業をめざして—京都大学公開実験授業の一年間—』 松浦 良充 (130)
ヘルマン・ノール著、O・F・ホルプ、F・ローディ編集、島田四郎監訳
『ドイツ精神史—ゲッテンゲン大学講義—』 舟山 俊明 (131)
エーリカ・マン著、田代尚弘訳
『ナチズム下の子どもたち—家庭と学校の崩壊—』 K・ルメル (133)
学会報告
第40回大会報告 (135)
欧文摘要

第 80 号

1999

論文

モンテッソーリによる「新しい女性」の創造
—拡大された母性イメージと教育概念— 山内 紀幸 (1)
「教育思想」の研究は、その推論を根拠づけるものを何に求めるか? 畔圓 俊夫 (18)
コミュニケーションと超絶論的絶 田中 裕希 (35)
E.H.エリクソンのジェネレイティヴィティ概念に関する考察
—ライフサイクルとかかわりのダイナミズム— 谷村 千絵 (48)
エッセイ
「もの」を考えるフランス知識人の伝統 沼田 裕之 (64)
教育哲学を考える 森田 尚人 (74)
外国学界・教育界の動向
モンテッソーリ—道徳性・ボジウムに参加して— 今井 康雄 野平 慎二 (76)
書評
倉岡正雄著『フレールベル教育思想の研究』 池田 全之 (81)
坂倉裕治著『ルソーの教育思想—利己的善の問題をめぐって—』 坂本 雅彦 (89)
松下晴彦著『「教育」としての言語と知識—人間形成の基礎的地平—』 生田久美子 (96)
図書紹介
J.デュエイ著、市村尚久訳『学校と社会—子どもとカリキュラム—』 立川 明 (100)
小笠原道雄編著
『精神科学的教育学の研究—現代教育学への遺産—』 舟山 俊明 (105)
金子幸子著『近代日本女性論の系譜』 影山 礼子 (107)
(欧文摘要)

第 76 号

1997

ベスタロッチ—生誕250年特集—

ベスタロッチ—教育論における「学校」の位置
—後期著作を中心として— 大澤 裕 (1)
ベスタロッチにおける直観概念—生成発展とその周辺— 伊藤 敏子 (15)
ベスタロッチ研究の再定位—脱神話化の後で— 鳥光美緒子 (30)
ベスタロッチ研究のひとつの問題について—F・オスターヴァルター著/
野平慎二訳、鳥光美緒子解説 (48)
日本におけるベスタロッチ—研究文献目録— 石橋哲成/清水 徹編 (61)

論文

教育における転移と逆転移—献身的教師の挫折— 毛利 猛 (99)
C・オットーの初期著作における自己探求的な芸術教育学理論の
基礎づけについての一考察 鈴木 幹雄 (110)
現代における人間形成と「美的なもの」
—「ポストモダン」と「未完の近代」の間— 野平 慎二 (124)
キルパトリック教育思想における「協同」概念の再検討
—個別教授批判をてがかりとして— 佐藤 隆之 (138)
エッセイ
一つの体験的学問論—カレッジ式大学を中心に— 岡本 道雄 (152)
教育哲学を考える 森川 直 (165)
図書紹介
高橋 勝著『学校のパラダイム転換—
—「権能空間」から「意味空間」へ—』 今井 康雄 (167)
マリア・モンテッソーリ著、K・ルメル・江島正子訳
『児童期から思春期へ』 博松かほる (180)
欧文摘要

第 78 号

1998

論文

『ツァラトゥストラ』にみるニーチェの自己形成思想 相澤 伸幸 (1)
近代的教養としての修辭学
—フイエの「観念力」に関する一考察— 斎藤 裕子 (17)
エッセイ
「教育哲学」は、なぜ不毛なのか 宇佐美 寛 (34)
教育哲学を考える 齋藤 昭 (45)

外国学界・教育界の動向

ボーム大学ディルタイ研究所と精神科学の歴史と理論 森 邦昭 (47)

書評

今井康雄著『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想—
—メディアのなかの教育—』 森田 伸子 (52)
佐藤 学著『教師というアポリア—反省的实践へ—』 高橋 勝 (60)
広阿義之著『ボルネー—教育学研究—』 岡本 英明 (67)
西平 直著『魂のライフサイクル—
—ユング・ウィルバー・シュタイナー—』 田中 節美 (73)

図書紹介

H.E.テノルト著、小笠原道雄・坂越正樹監訳
『教育学における「近代」問題』 原 聡介 (80)
W.H.ブレイカー著、増淵幸男監訳『シュライアーマッハーの哲学』 越後 智治 (81)
天野正治・結城 忠・別府昭昭編著『ドイツの教育』 今井 重孝 (82)

(欧文摘要)

第 81 号

2000

研究討議

20世紀末の教育哲学—ポストモダニズムの功罪—

教育学の「ポストモダン」体験—日本の場合— 今井 康雄 (1)
合わせ鏡としてのモダン/ポストモダン 鈴木 晶子 (6)
ポストモダン時代における人間形成論と教育改訂論の展覧
—「自己の境界線を超えよう」という意義を探る— 早川 幸博 (11)
研究討議に関する総括的報告 増淵 幸男 森田 尚人 (16)

課題研究

学校論の可能性—学校批判のあり方を検討する—

学習活動の場としての学校論—教育実践論の立場から— 齋藤 勉 (22)
学校論と教師や子どもの経験 中田 基昭 (27)
学校論を検討するための枠組みの問題について 松下 晴彦 (32)
視座論についての総括的報告 藤井 啓孝 宮寺 晃夫 (37)

論文

J・デュエイの教育論における「成長」概念の倫理的、道徳的意味
—「完全なコーディネーション」の概念に着目して— 大井 美穂 (43)
19-20世紀転換期におけるニーチェ受容
—E・ウェーバーのニーチェ論の同時代的意味— 松原 岳行 (58)
教育論における「分析」という営みの種性について
—2種類の「分析」観のそれぞれに照らした説明— 堤 大輔 (75)
E・ホームズの「教育の新理想」としての「自己実現」概念
—(well-being)と(wholeness)の探究にもとづいて— 山崎 洋子 (92)
エッセイ
遅れてやってきた近代状況を迎えて 原 聡介 (112)
教育哲学を考える 佐藤 隆之 (122)
書評
土戸康彦著『冒険する哲学者—(子ども)と(大人)のあいだ—』 松下 良平 (124)
氏家重信著『教育学的人間学の諸相—その多様性と統一性—』 矢野 博史 (131)
小玉重夫著『教育改革と公共性—
—ポルズ＝ギンタスからハンナ・アレントへ—』 森田 尚人 (138)
図書紹介
上田滿編『よみがえれ教師の能力と道力』 藤井 千香 (149)
シュライエルマッハー著、長井和雄・稲村浩訳『教育学講義』 舟山 俊明 (151)
島紀夫・矢野智可編『日本の教育人間学』 木内 陽一 (153)
学会報告
第42回大会報告 (155)
欧文摘要

第 82 号

2000

論文

F. Ch. エーティンガーの Bildung 論について
「再生」論を手がかりとして
アドルノの教育論にみる「批判」の人間形成的意味
教育学における「時間」概念の再検討
1930年代社会改造主義における教化の再検討

エッセイ

アフター・ヴァーチャー? イエット・ヴァーチャー!
日本の啓蒙の確認の試み

教育哲学を考える

書評

増渕幸男著『シュライアーマッハーの思想と生涯
遠くで近いヘーゲルとの関係

図書紹介

オーヴェルベルク著、長友正訳『教育入門』
D・ボブ・ゴウウィン著、竹内巧・佐野安仁監訳『エデュケーション』
小笠原道雄監修、林忠幸・森川直編『近代教育思想の展開』

〈欧文摘要〉

第 83 号

2001

研究討議

「今日の教育課題としての学力とは何か—教育改革を視野に入れて—」
「学んだ力」から「学ぶ力」への転換
今日の教育課題としての学力とは何か
学力の地帯論的考察
「読む・書く・聞く」能力の向上—通信教育の現場から—

課題研究

「学校の公共性と市場性を問う」
学校の公共性と市場性
学校の公共性と市場原理の政治学
学校の公共性と市場性と近代教育思想
総括的報告

論文

ドイツ青年運動の「セクシュアリティ」問題に関する一考察
—生教育思想との連続性を中心として—
カントにおける道徳教育方法論の思考法

エッセイ

児童・生徒観の再検討
教育哲学を考える

書評

宮寺晃夫著『リベラリズムの教育哲学—多様性と選択—』
矢野智司著『自己愛容という物語—生成・贈与・教育—』

図書紹介

下野勇吉・教育人間学研究会著『教育人間学の根本問題』
徳本浩太郎著『平和の哲学—孔子からユネスコへ—』
福田裕之・加藤守通編著『文化史としての教育思想史』

〈欧文摘要〉

第 84 号

2001

特集〈教育哲学と超越性〉

超越の亡失—教育をめぐる反時代的考察—
東洋思想と人間形成—井筒俊彦の理論地平から—
教育・他者・超越—語りえぬものを伝えることをめぐって—

論文

J・A・コムニスにおける事物主義と図像
—十七世紀普通言語構想における言葉と事物—

エッセイ

教育実践理論への「超越論」的視座
教育哲学を考える

書評

坂越正勝著『ヘルマン・ノール教育学的研究』
杉山精一著『初期ヘルバルトの思想形成に関する研究』
田端健人著『詩の授業』の現象学
増渕幸男・森田尚人編『現代教育学的地平—ポストモダニズムを超えて—』

図書紹介

樽松かほる著『小泉郁子の研究』
クリストフ・ヴルフ編著、高橋勝監訳『教育人間学入門』

〈欧文摘要〉

第 85 号

2002

研究討議

「他者」との出会いとしての共生—教育にとっての示唆
共生と教育の二つのかたち
自己形成的トポスとしての「教室という社会」の再構築
—「共生」に基礎をおく道徳教育の可能性—

課題研究

「学力論」の問題圖
学力論の言語と視座—情報消費社会の中での読解—
学力論への反本質主義的接近
子どもの学ぶ力を磨く多面的必要
—メルローポンティのワロン評価の要点—

論文

ディルタイの自己省察における理論—実践関係の再検討
自己省察概念の中期と後期の連続性に着目して—
教育哲学における他者解釈の技法の機能について

エッセイ

自己実現と自己超越の問題—教育学的自叙伝の試み—
教育哲学を考える

書評

鈴木幹雄著『ドイツにおける芸術教育学成立過程の研究』
—芸術教育運動から初期G・オットーの芸術教育学へ—

図書紹介

岡本英明著『解釈学的教育学的研究』
Jan Schwill, Alfred K. Tremel: Begegnung der Kulturen. Was kann die interkulturelle Pädagogik von Otto Friedrich Bollnow lernen?

〈欧文摘要〉

第 86 号

2002

論文

対話としての教育に関する一考察
—私心、ゴッダーの啓蒙主義材料と人文主義的知識の再検討を中心に—

エッセイ

中国の教育思想と教育哲学研究の現状—私の半世紀的考察—

教育哲学を考える

外国学専攻・教育専攻の動向
教育哲学学会国際連絡会—第20回大会に参加して—

書評

藤村雅一著『教育と社会の歴史—一世紀から未来へ—』
『図像・図像論と教育の歴史—一世紀から未来へ—』
『図像・図像論の思想と哲学』
『図像・図像論の思想と哲学』

図書紹介

藤村雅一・佐野英二・森川直編『ディルタイと現代』
藤村雅一著『教育思想について—一世紀からの未来へ—』
京都大学高等教育システム開発センター編『大学教育研究の構想—一世紀からの未来へ—』

〈欧文摘要〉

第 87 号

2003

研究討議

「公」の教育、「私」の教育
—アリストテレス『政治家』第4巻1章をめぐって—
アリストテレスの公教育論と生きること—学ぶことの意義の回復—

課題研究

「言葉」の語り方をめぐって—作者・解釈・物語—
ニーチェの教育批判と言語批判
語り続ける力としての「教育」
—物語的人間関係の視点から「教育」を考える—

論文

教育と「法典」地帯
—選挙の組織と選挙の暴力性に関する一考察—

エッセイ

『学校と社会』[The School And Society]の上野謙一郎をめぐって

図書紹介

藤村雅一著『プラクティズムと教育—デュロイからローチエへ—』
広瀬隆一著『教育力としての言語—シュタイナー教育の形成—』

〈欧文摘要〉



# 第 88 号

2003

## 論 文

- メランヒトンのカテキズム—「再生」への準備としての教育—— 渡辺 晃夫 (1)
- ペスタロッチーの『探究』における教育の二つの次元  
—「探究」の新たな批判をふまえて— …………… 小野寺伸夫 (10)
- ペスタロッチーの文法について—その意味と必然性— …………… 高橋 幸幸 (30)
- ベルクソンにおける「生成の努力」と「多元的な目的性」の概念の教育学的意義  
—プラグマティズム論との関係性に注目して— …………… 土屋 晴明 (51)
- 教育的関係におけるコミュニケーション行為の可能性  
—相互承認による自己形成論へ— …………… 藤井 雄哉 (67)
- 人間形成とメルロ＝ポンティの思想  
—「メルロ＝ポンティ・ソルボンヌ講義録」における「多形性」概念と  
社会化観の持つ特徴— …………… 藤田 雄飛 (84)

## エッセイ

- 二宮尊徳論 …………… 泉 紀夫 (90)
- 教育哲学を考える …………… 平野 正久 (10)

## 書 評

- 矢野龍渓『動物基本をめぐる冒険—動物 人間のレッスナー—』 …… 福田 弘 (10)

## 図書紹介

- 和田修二著『教育の本質』 …………… 本内 陽一 (10)
- 田沼之喜『教育の条件—人間・時間・言葉—』 …………… 鈴木 昌子 (10)
- 深谷潤吉『スペースと三人の神学者たち  
—キリスト教教育哲学の断片—』 …………… 松丸 啓子 (10)
- 泉 紀夫編著『臨床教育学の生成』 …………… 広石 典記 (10)
- 土戸敏彦編『(道徳)は教えられるのか?』 …………… 松下 良平 (10)

## 学会報告

## 取文摘要